

## 令和2年 議会活性化特別委員会行政視察報告

### 【参加委員】

委員長 吉岡 徹  
副委員長 内藤 祐子  
委員 高柳 博行 和嶋 美和子 塩川 浩志 清水 秀三郎 大塚 雄一 柳澤 潔

### I 視察事項

#### ○ 若者議会について

佐久市議会議会活性化特別委員会の目的は、議会の見える化と議員のなり手不足対策です。新城市の「若者議会」は画期的な実践で有名です。なぜ、市政に若者の興味喚起をできたのか。継続する中で主体的な若者をどう育てる事ができたのか。学び、参考にできないかと、視察先に選定した。

1 視察日時 令和2年1月20日（月）午後2時から午後3時30分

2 視察先 愛知県新城市

### 3 視察概要

(1) 対応 若者議会連盟、ゲストハウス運営、ブロガー 鈴木 孝浩氏  
(東京で大学卒業後、社会人となって2013年に地域おこし協力隊で移住。若者議会立ち上げから関わっている。)

#### (2) 内容

新城市若者議会は「新城市若者条例・新城市若者議会条例」に基づき、平成27年4月1日に設置された。若者が活躍できるまちにするため、若者を取り巻くさまざまな問題を考え、話し合うとともに、若者の力を活かすまちづくり政策を検討。予算提案権を持ち、予算の使い道を若者自らが考え政策立案する。さらにそれを市長に答申し、市議会の承認を得て、市の事業として実施される。こういう一連のサイクルが、日本で初めて条例で定められている。新城に対する様々な意見・想いを持つ若者同士、新城について語り合いながら「新城のこれから」について若者の視点で考える。若者が活躍できるまちを目指して、新城市が若者の一歩を応援するシステム。

若者議会の委員は公募で選ばれる。概ね16才から29才。市内在住、通勤、通学の20人以内。高校生、大学生、若い社会人がメンバーで、任期は1年。非常勤特別職の公務員という立場で、一日当たり3,000円の報酬。若者議会の提案で実現した政策も多くある。予算は毎年1,000万円ほど。例えば市内図書館の改修やバス攻略アドベンチャーイベント（運転席に座れたり、バスと綱引きなどでバスを身近に感じさせる）で、利用率の向上につながっている。若者議会のOBが市議会議員になったり、市の地域協議会や他の市の審議会委員になったりしている。若者議会が始まってから、高校生が市役所に立ち寄る事が増えたという。



図書館リニューアル前



図書館リニューアル後

### (3) 考 察

そもそもは穂積亮次市長が3期目に、消滅可能性都市に愛知県内の市で唯一入っていたことを背景に、「若者が活躍できるまちづくり」を公約したのがきっかけ。世界に「ニューキャッスル」市が2年ごとに集う会議があり、イギリスでの会議に参加した竹下君ら4人がキーパーソンとなった。欧州には若者議会があること。自分の街を知らない事への意識から、帰国してからの発信に市長が呼応したもの。若者政策ワーキングが発足し、学びや協議、視察等を重ね、行政とマッチングし、2015年に若者議会第一期が発足。ここがポイントだと思う。

スタートには若手の専属職員を1人配置、上司一人も担当し熱く関わって、成功に結び付いたとの事。一期生は「帰ってきたい街にしたい」という思いを発していた。その見守りが今後の課題であるとの事。

若者、市長、行政の歯車が合う事。対応した鈴木君の「地元愛を持っている若者は絶対いる。場さえあれば若者は来る。」という言葉が印象深かった。



## II 視察事項

- 議会図書室について（議会図書室と中央図書館の連携）
- 議会ICT化について（タブレット端末の導入について）

法律に定められている議会図書室の設置だが、佐久市議会図書室はほとんど活用されていない現状がある。田原市は議会図書室と中央図書館が連携し、議員の求める一般質問や視察に沿う資料等を提供している情報を知り、少しでも佐久市に応用できないか、という事と、同時にタブレット端末の導入がされ、活用されていることから、事例を学ぼうと視察先に選定した。

1 視察日時 令和2年1月21日（火）午前9時から午前12時

2 視察先 愛知県田原市

### 3 視察概要

#### (1) 対応

議長、議員、議会事務局長、議事課職員、中央図書館長、嘱託司書

#### (2) 議会図書室について（議会図書室と中央図書館の連携）

##### ア 内容

2014年12月、議会事務局から、議会図書室の整備を中央図書館に相談した。2015年、1月、連携担当司書一人を選任し、資料選定、棚レイアウト見直しなどを整備した。その後、議会支援サービスの試行開始。団体貸出、一般質問や視察に沿った資料提供。連携マニュアル作成。2016年から本格実施。「レファレンス事例集」を作成した。

その後、「行政・議会支援サービス」に名称変更、様式を統一した。

中央図書館で、「写真で見る田原市議会」を展示したり、「議員と語ろうホリデー」を開催し、20名の参加があった。



写真で見る田原市議会



図書館で議員と語ろうホリデー

## イ 考 察

まず、議会図書室を見せてもらって、明るくきれいで、打ち合わせくらいはできる空間であることに感動。ここにきれいにレイアウトされた資料等あれば、調べ物がしたくなる雰囲気でした。

職員の体制が整備されている事。「行政・議会支援サービス」担当司書が5人（兼務）。サービスの内容は、調査、複写、貸出、展示、学校（授業で使う資料の提供等）。展示コーナーでは「パブコメコーナー」に関連資料・書籍を展示したりする。行政のパブコメへの図書館の関りは新鮮。

レファレンスは「こんな資料が欲しい」と依頼すれば、探してコピーして頂けるというサービス。テーマに沿った他自治体の事例なども依頼して調査して頂けるのは画期的。議員の利用も年々増加しているとの事。

また「議員と語ろうホリデー」は図書館企画。今後も継続したい、と。

何が違うのか。もともと、田原市は図書館利用の風土があるという事。本の貸出し全国平均の2倍以上。開館時間も平日10時から19時。400席あり、市民の交流の場にして行こうという流れがある。複合施設なので、閉館後でも外にフリースペースがあり、学生は勉強できるようになっている。職員も専属正職司書が3人、移動してくる前に、市の負担で司書資格取得するシステム。司書の異動も3年、5年、15年の人もいるとの事。市民のために、図書館はこうあるべきという位置付けが、しっかりあるのだと思う。

### (3) 議会ICT化について（タブレット端末の導入について）

#### ア 内 容

2014年に議会改革特別委員会がICT活用や、タブレット端末などの会議への持ち込み、議会BCPの推進の検討を提言した事等をきっかけに、議会運営委員会が端末の導入を検討。ルール作りや機種選び、アプリの決定などを経て、2016年3月定例会に合わせ導入。公式な活動以外での利用も踏まえ、個人購入にした。9月議会までを実証実験期間とし、その間は紙の資料も併用。12月議会から本格的な活用を開始した。ペーパーレス化は目的ではなく、紙の方が見やすいものは紙で配布しているが、結果的には紙の削減になっている。

事務局としても、資料印刷不要、差し替えが手間なし、議員との連絡調整が容易、会議開催通知も簡便になった。

導入してからの事務局担当者の弁「最初は端末に慣れていない議員の中で戸惑いはあったが、事務局も個別に対応。会派の壁を越えて議員同士で教え合い、不便になったという声は聞いていない。資料を取りに来る手間が省ける。スマホからでも見えて便利と言っている」との事。今後はタブレットの内容をプロジェクターで映し出して活用するほか、策定予定のBCP計画に沿って災害時には議員がタブレットを持って地域に出て、画像や情報を収集し、市と連携する活動に役立てていくという事でした。

## イ 考 察

説明してくれた議会事務局員が、まずこの分野に長けている印象でした。だから、導入を決め、個人所有で始めたというのは個性的。苦手議員への個別対応で普及できたのだと思

う。機種も様々な中でもそれぞれの対応で、特に問題はないという事でした。

どちらがいかと言うのは、それぞれの議会で決めることだが、まずやってみるというフットワークの軽さは見習う所があったと感じました。

ただ、環境の相違はあり、以前からグループウェアとして、「サイボウズL i v e」を全議員、事務局で利用していて、それを「サイボウズO f f i c e」にグレードアップしたこと。資料閲覧ソフトとして無料アプリ「S i d e B o o k s」を利用。議会の全フロアに議会専用の無線L A N整備がされている。

低額導入のため抵抗はなかったようだ。



### III 視察事項

- 委員会のライブ中継及び録画中継について
- タブレット端末の導入について

テーマである議会の見える化の具体策の一つとして「委員会の公開」について検討してきた。先進市上越市へ視察の準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症防止の課題が大きくなり、県外への視察は自粛となった。小康状態の中、県内は大丈夫という事で、類似団体でもある飯田市に、実施している委員会の中継と、導入の運びとなっているタブレット端末の導入について、視察研修することにした。今回は、行政側から総務係長（清水）以下職員（東出、西谷、大井）合わせて4人が参加となった。

1 視察日時 令和2年11月9日（月）午後1時から午後3時

2 視 察 先 長野県飯田市

3 視察概要

(1) 対 応

議長、議会改革推進会議委員長、議会改革推進会議副委員長、  
議会事務局長、総務・企画課長ほか、職員多数

## (2) 委員会のライブ中継及び録画中継について

### ア 内 容

公開対象は常任委員会と特別委員会。YouTube（ユーチューブ）で配信している。定点撮影で、インターネット中継はライブと録画で行っている。録画中継は編集を行わず放映しているが、不規則発言やオフレコ発言がなされた場合は、一時的に動画を非公開とし、編集するなどの対処を行う予定。設備は天井設置の固定カメラ、ミキサー、ネット配信機器、ノートPC、マイクシステム。

平成25年に6、7名の推進会議を設置し、検討を始めた。ユーストリームで録画配信を1年間試行した。不規則発言があった場合、止めることとしたが、今のところ事例はない。ケーブルテレビでも放映している（普及率約4割）

委員会は基本的に同時開催ではないので、カメラは2台で間に合っている。（予算決算委員会分科会が2つ同時になる事がある）

### イ 考 察

導入当初は、緊張したが、慣れてきたら意外にこれまでと変わらないとの事。不規則発言で対応に困ったことがこれまで無いという事に驚き。カメラが回っている事で抑制されているのかと思う。

カメラが2台で間に合っていることに関しては、何といたっても基本は委員会が同時開催でないというのが前提である。このことは検討の余地がある。

カメラをどうするか。委員会の同時開催を見直せるのか、が佐久市の場合の課題であることは確認できた。

## (3) タブレット端末の導入について

### ア 内 容

議会改革推進会議で2019年5月前期委員会から検討継続。視察や、会派協議を重ねながら、課題整理と議員ICT環境調査をし、まとめた。

導入の目的は、利便性を生かして「議会機能の強化」を推進する事。執行機関との情報共有をより円滑に推進する事。資料を蓄積（アーカイブ化）する事。市民への迅速・的確な情報提供をしていく事。

課題整理をしながら、執行機関との共同研究をしてきた。市側は先行して部長会議などで使用している。調査内容や課題をまとめて議会改革推進会議は今年6月に「議会ICT化」に向けた報告書を議運に提出した。内容では例えば、行政側との共同研究を進める事、導入費用、運用経費、効果の検討をする事、セキュリティや管理体制の確認、禁止事項の検討、議員のICT環境調査、先進事例の研究調査を進める事。サイドブックの検討、また、実際に費用の試算、規定の申し合わせ事項、会議規則や委員会条例の改正の検討も盛り込まれている。

今年度、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、行政と同時導入の方向で進んでいる。

## イ 考 察

類似自治体とはいえ、状況はまたそれぞれ。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が使えるという判断で、導入が具体化している。また、行政側が既に平成28年度から、30台用意し、部長会等で、平均月に3回程度活用している状況である事。議会等に既にWi-Fi環境がある事等、前提に随分と違いはある。議会としても更に選択肢を設定しながら、どういう形なら導入が可能になるのか、議会全体の課題整理をしながら、さらに行政側との協議も重ねながら、検討を進める必要があると感じました。

